

部落解放・人権研究所とは・・・

「一般社団法人 部落解放・人権研究所」は、部落差別をはじめ一切の差別撤廃をめざした部落解放運動の中で生まれた政策研究機関です。国内外の差別や人権問題の解決に役立つ調査研究事業、人権人材育成事業、人権教育啓発事業、情報発信事業等に取り組んでいます。

入会案内

部落解放・人権研究所は、研究活動に賛同し、参加して下さる会員（個人会員）を募集しています。会員（個人会員）には「A会員」、「B会員」、「学生会員」があります。

【A 会員】 年会費 10,000円
特典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』12冊
『研究所通信』4回

【B 会員】 年会費 7,000円
特典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』2冊
『研究所通信』4回

【学生会員】 年会費 3,500円
特典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』2冊
『研究所通信』4回

また、研究活動を支えて下さる賛助会員も募集しています。

【賛助会員】 年会費 50,000円
特典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』12冊
『研究所通信』、『全国のあいつぐ差別事件』他

研究所通信 399号 2015年5月1日（奇数月1日発行）

発行所 部落解放・人権研究所

編集発行人 奥田 均

〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル8階
TEL 06-6581-8530 FAX 06-6581-8540

定価100円（送料込：会員は会費に含む）

振替口座 大阪 00970-6-3183



「第一研究部門第5回公開講座」

2015年4月11日 @大阪人権博物館



第一研究部門では、公開講座を定期的で開催しています。

今回は5月16日（土）に、竹沢泰子さん（京都大学人文科学研究所）にご報告いただきます。

もくじ

理事からのメッセージ / 谷川雅彦理事	2	新人紹介	11
研究部門報告 第一研究部門	4	西日本夏期講座のお知らせ	12
2015年度解放大学開講します	8	月刊ヒューマンライツ案内	13
啓発・研修についてのご相談	9	お知らせ:6月は「就職差別撤廃月間」	14
理事会報告・第4回総会案内	10	参加者募集・その他お知らせ	15

理事からのメッセージ

みなさんのおかげで

理事 谷川 雅彦



部落解放同盟大阪府連合会の専従役員（政策担当）から研究所へ異動して今年の7月で早くも3年目を迎えます。旧民法法人から現在の一般社団法人（内閣府認可）への移行、研究所の経営基盤の確立、研究体制の再編、事務局体制の強化、人権啓発・人材育成事業の充実等にむけてまさにがむしゃらに走り続けてきた3年間でした。

研究所の役員に就任していただいた近畿大学人権問題研究所教授の奥田均さん、大阪同和・人権問題企業連絡会理事長の井上龍生さん、大阪国際大学准教授・全日本おばちゃん党代表代行の谷口真由美さん、部落解放同盟大阪府連合会執行委員長の北口末廣さん、NPO法人多民族共生人権教育センターの朴洋幸さん、そして研究所職員として事務局を担っていた松本信司さん、大阪府商工会連合会地域貢献型企業経営サポートセンターの越智昭博さん、税理士の橋本孝雄さん、この8名の献身的な取り組みと事務局スタッフの努力、個人会員、賛助会員、関係団体のみなさんの理解と協力、諸先輩方の応援によって研究所は新しい出発を期すことができました。

とりわけ、2014年度はこれまで続いてきた個人会員、賛助会員、人権教育啓発情報誌『ヒューマンライツ』購読者の減少傾向に歯止めをかけることができ、はじめて会員、購読者が前年度を上回りました。

研究所の生命線でもある研究部会の再編にも着手しました。25に広がった研究部会をそれぞれの研究会の「活動状況」、研究所の「財政状況」、研究会を支える「事務局体制」（スタッフが確保できるか）、「求められる研究課題」は何か、研究会を引っ張っていく「研究者の協力」が得られるのか、という視点から見直し、5つの調査研究部門（「部落差別」「性差別構造」「人権教育・啓発」「差別禁止法」「社会的排除」）に再編しました。

「差別禁止法」や「社会的排除」、「歴史研究」のようにすでに研究者を中心に調査・研究がスタートしている研究部門、「性差別構造」や「人権教育・啓発」のように「複合差別」「国連文書」「スクールソーシャルワーク」というテーマを設定して調査研究計画の立案検討をはじめている調査研究部門など、研究者中心による調査研究体制が動き出してきました。

厳しい財政事情から調査・研究活動にあたっては研究所の財政状況をふまえ最低必要限度の予算は確保しますが、調査・研究活動にあたっては原則、科研費等の外部資金を積極的に活用するというスタイルに改めてきました。毎年、科研費等の外部資金にエントリーしています。その甲斐あって昨年秋に申請していた科研費（2015年度～2017年度の3カ年）が認められました。韓国の国史編纂委員会と高麗大学に分散して保存されている朝鮮総督府史料の中から見つかった「衡平社」関係史料を日本と韓国の共同研究で翻刻し分析するという調査研究事業です。これで研究所は「若者の生活とリテラシー研究」「社会的排除の調査研究」に加えて3つの科研費事業に取り組むことになりました。

本年は二度と戦争をしないと誓った日から70年、女性差別撤廃条約に我が国が批准し男女雇用機会均等法が制定され30年、人種差別撤廃条約の採択から50年、そして我が国が批准してから20年など平和と人権にとって世界的な節目の年にあたります。

また本年は同和問題の解決が国の責務であり国民的課題であると述べた内閣同和对策審議会答申から50年、「部落地名総鑑」差別事件が発覚して40年にあたる年です。土地差別調査事件、同和地区の所在地問い合わせ、インターネットを悪用した同和地区の所在地情報の流布、戸籍等の不正請求など同和問題の解決はいよいよ本質的な課題解決を求める段階にあるといえます。節目を迎える本年、答申が求めた同和問題の根本的解決へあらためて部落差別がいまどのような状況にあるのかという実態把握が求められています。

今年度、20年ぶりに大阪の地で開催される第30回人権啓発研究集会（2016年2月予定）の成功にむけて取り組むとともに、40年目を迎える部落解放・西日本夏期講座（岡山）、第46回部落解放・人権夏期講座（高野山）、第36回人権・同和問題企業啓発講座（大阪）の成功にむけて取り組みます。

修了生が5,000人を突破、同窓会組織が立ち上がった部落解放・人権大学講座（大阪）、29年目を迎える人権啓発東京講座（東京）の2つの人権人材育成事業についてもさらなる内容の充実に向けて取り組みます。とりわけ人権啓発東京講座は事務局に東京のスタッフを採用して東京人権啓発企業連絡会や『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議、部落解放同盟関東ブロック等の関係団体と一層連携を強めていきます。

人権教育啓発情報誌として毎月発行している『ヒューマンライツ』についても内容充実と読者の拡大に取り組みます。そして今年度はとりわけ研究所の情報発信機能の強化に取り組みます。具体的には研究所ホームページをリニューアル（ホームページから会員更新や各種講座の参加申込みの手続きができるようになります）します。

これらの課題に現場で取り組んでいくのが事務局です。今年度は総務、会計、講座の担当に新しいスタッフを補強するとともに、できるだけ早期に調査研究、啓発企画の人材確保にも取り組み、研究所を縁の下から支える事務局体制を充実します。

第一研究部門（部落差別の調査研究） 2015年度科研費交付・内定

昨年11月に申請しました「日本統治下朝鮮における衡平運動に関する歴史的研究」（研究科目：基盤研究（C）、分野：人文学、分科：史学、細目：日本史、研究代表者：石橋武（朝治武）、研究分担者：水野直樹、廣岡浄進、期間：2015年度～2017年度）が独立行政法人日本学術振興会より2015年4月1日付で2015年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）として交付・内定の通知が届きました。

2010年に研究所が科研費を申請できる研究機関になってから4つ目の交付・内定です。

今回、交付・内定した研究は、2013年度から第一研究部門で取り組んでいます「衡平社史料研究会」（代表：秋定嘉和、金仲燮（韓国・慶尚大学教授））を継承・発展させるものです。衡平社史料研究会は日本統治下の朝鮮に

おいて「白丁（ペクチョン）」に対する差別の撤廃を求めて設立された衡平社の運動にかかわる新出の朝鮮総督府史料（所蔵：韓国・国史編纂委員会、韓国・高麗大学）の目録作り及び翻刻作業、史料調査（2014年11月）を終え、現在、解題論文と翻刻史料からなる史料集の刊行（2016年3月）に向けて翻刻・翻訳・編集作業及び研究活動を行っております。

一方、科研費研究会は、この翻刻史料集を基礎に、新聞など周辺史料の発掘・整理を行い、衡平運動の実態解明、水平運動との交流や運動をめぐる社会状況の比較などの研究を開始します。（第一研究部門事務局）

科研費とは・・・

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。

（日本学術振興会のホームページより）

研究部門の活動紹介

第一研究部門（部落差別の調査研究）

現在、第一研究部門（部門長：朝治武・大阪人権博物館）では5つの研究会（調査研究事業）を精力的に行っております。以下、各研究会の活動を紹介します。

●『新版 部落の歴史』編集・刊行にむけての研究会

「部落史研究の現水準を踏まえた部落史概説を作成し、啓発・教育ひいては解放運動に資するとともに、広く国際発信をしていくこと」を目的に本研究会は2011年度から2か年の計画でスタートしました。その研究成果は、昨年1月より月刊『ヒューマンライツ』で連載（「連載 被差別部落の歴史」）しておりますのでぜひご一読ください。また、現在、研究成果を国際発信するため翻訳作業等に取り組んでおります。年内には前近代の英文版が完成し、研究所のホームページに掲載予定です。

代 表：寺木伸明（桃山学院大学名誉教授）＜前近代担当＞
黒川みどり（静岡大学）＜近現代担当＞
翻訳協力者：イアン・ニアリー（イギリス・オックスフォード大学）
フィリップ・ピリングズリー（桃山学院大学）

●「普選と部落問題」研究会

普通選挙が部落および部落問題にどのような影響を及ぼしたのか、また、普通選挙への部落の側からのアプローチにとどまらず、部落へのアプローチも含めて、普通選挙の実現が部落問題をとりまく状況、とりわけ部落を含む地域社会の状況をどう変えていったのか、を市町村会や府県会などにおける部落出身議員の占める割合とその果たした役割、部落問題をめぐる各種議会での議論の内容、部落問題関係団体内部での「政治」に関する議論、各種社会団体・政党における部落問題についての議論などを通じて「普選実施前」と「普選実施後」に分けて明らかにすることを目的に、2012年度から3ヶ年にわたって研究活動を行ってきました。

研究会は残り1回の研究会を経て、来年3月刊行の紀要『部落解放研究』204号に研究成果を発表します。

代 表：吉田文茂（高知県部落史研究会）
メンバー：朝治武（大阪人権博物館）、井岡康時（天理大学）、関口寛（四国大学）
手島一雄（立命館大学）、廣岡浄進（大阪観光大学）
本郷浩二（世界人権問題研究センター）、山下隆章（香川県部落史研究会）

● 第二次宗門改帳研究会

2011年度より河内国石川郡新堂村竹田家文書の「宗門改帳」を基に、地域の人口増減状況、生産活動、家族関係、相続のありよう、婚姻圏やそれを通して見えてくる地域同士の交流・流通等々を分析するため、享保2年(1717年)から慶応3年(1867年)までの計76冊の「宗門改帳」に記載されている内容を表計算ソフト「エクセル」に入力する作業等を行ってきました。今後、2017年3月刊行の紀要『部落解放研究』に研究成果を発表するためデータの校正作業を行うと共に、分析作業及び執筆に取り組むことになっております。また、その後、地元向けに分かりやすい冊子を作成することも検討しています。

なお、竹田家文書は大阪の部落史委員会が『大阪の部落史』編纂事業を行う過程で見つかった新出の史料です。

代 表：寺木伸明（桃山学院大学名誉教授）

メンバー：藤原有和（関西大学人権問題研究室）、高野豊（神戸国際中等高等学校）

田村賢一（部落解放同盟富田林支部）、玉城幸男（地域史研究者）

矢野治世美（和歌山人権研究所）

事務局：松本信司（部落解放・人権研究所）

● 衡平社史料研究会(朝鮮総督府史料)

衡平運動研究者である徐知伶さん、「白丁」研究者である徐知延さんが発見した朝鮮総督府史料(所蔵：韓国・国史編纂委員会、韓国・高麗大学)の中に衡平社関係の史料が多数含まれていることが2012年8月に行われた第18回全国部落史研究大会で明らかになりました。また、これらの史料は衡平社の全体像を把握するという点から見ても極めて価値の高い史料であるという判断から2013年度より3ヶ年計画で本研究会はスタートしました。

この間、研究会では史料の目録作り及び翻刻作業、韓国での史料調査を行い、新たな史料の発見と解読が不可能であった部分が解読できるようになり、精度の高い翻刻が可能となりました。

今後、研究会は解題論文と翻刻史料からなる史料集(A5判、2段組み、約800頁)の刊行(2016年3月)に向けて翻刻・翻訳・編集作業を行います。同時に、朝治部門長を研究代表とする「日本統治下朝鮮における衡平運動に関する歴史的研究」に2015年度から3ヶ年にわたって科研費が交付されることになりましたので、本格的な研究活動を開始します。

代 表：金仲燮（韓国・慶尚大学）、秋定嘉和（世界人権問題研究センター）

メンバー：徐知伶（衡平運動研究者）、徐知延（「白丁」研究者）、朝治武（大阪人権博物館）

高正子（神戸大学）、駒井忠之（水平社博物館）

竹森健二郎（全国部落史研究会）、廣岡浄進（大阪観光大学）

水野直樹（京都大学人文科学研究所）、吉田文茂（高知県部落史研究会）

渡辺俊雄（全国部落史研究会）、割石忠典（全国部落史研究会）

オブザーバー：塚崎昌之（大阪府立高校教員）、寺木伸明（桃山学院大学）

友永健三（部落解放・人権研究所）、青野正明（桃山学院大学）

谷川雅彦（部落解放・人権研究所）

事務局：松本信司（部落解放・人権研究所）

● 水平社100年にむけた準備研究会

2022年3月で全国水平社の創立から100年を迎えます。今後、部落問題の100年を軸に近現代部落史を検証し、部落解放の新しい方向を模索・発信する必要があります。準備研究会は100年に向けた研究課題を今年1年かけて議論・整理し、2016年度より正式に研究会をスタートさせる計画です。

なお、準備研究会では以下の8点を議論・整理する予定です。

①現代的な問題意識と課題からテーマを設定、②近現代日本史における部落問題の位置、③時期区分による部落問題の展開、④部落問題における政策・実態・意識・認識・運動の統一的把握、⑤研究の到達点をふまえた実証研究と論点の明確化、⑥地域的視点と全国的視点を視野に入れた総合化、⑦歴史学・社会学・経済学・教育学など多様な分野からのアプローチ、⑧他の差別・人権諸課題と結びつけた検討、⑨その他

メンバー：黒川みどり（静岡大学）、関口寛（四国大学）、内田龍史（尚絅学院大学）

朝治武（大阪人権博物館）

事務局：松本信司（部落解放・人権研究所）

● その他

①公開講座(歴史研究会)の開催

第一研究部門では調査研究事業の研究成果を中心に公開講座を定期的に開催しております。今回は5月16日(土)午後2時から大阪人権博物館にて竹沢泰子さん(京都大学人文科学研究所)にご報告頂きますので、ぜひご参加ください。

②大阪近世人権史研究会(代表 寺木伸明、2009～2012年度)の研究成果をまとめた論集『近世大坂と被差別民社会』(寺木伸明・藪田貫編、A5判 上製本 428頁 定価9,800円)がこのたび清文堂出版より刊行されました。ぜひご一読ください。

解放大学は2015年度も2期開講します

研究所の人材育成事業として、2014年度の部落解放・人権大学講座（解放大学）は3月5日、第108期45人全員の方が修了され、今年度の予定を終了しました。開講から40年、5,000人超の受講実績の上に、2015年度も2期開講します。

今年度も「出会い・発見・感動」を謳い文句に、前期109期は5月から12月まで、後期110期は8月から翌年3月までの週1回ペースでの約半年間のプログラム（定員は各期とも約50人）です。

今年度の特徴として、「戦後70年」や「ヘイトスピーチ問題」「差別禁止法を求めて」など、いくつかの新たなテーマを加え、各期26日間実施します。講座の講師や、自己啓発学習の助言者の方々も新しい方をお迎えして新風を吹き込んでいただきます。また、一部の講座は聴講も可能です。

プログラムや講師一覧、受講申込などを記載した開催要綱（パンフレット）がご入り用の場合は研究所までお知らせ下さい。PDF版は研究所のウェブサイトダウンロードできます。お問い合わせは事務局まで。

(TEL: 06-6581-8596 FAX: 06-6581-8540)

主会場 AIAI おおさか 〈HRCビル〉

〒552-0001 大阪市港区波除 4-1-37 HRCビル



- JR大阪環状線「弁天町」駅北口
- 地下鉄中央線「弁天町」駅④番出口から約10分

2015年度 “人権”を総合的に学べる国内有数の講座

部落解放・人権 出会い 発見 感動 大学講座

40年の歴史の上に、393団体、5,044人の受講実績。

第109期	2015年 5月26日 ▶ 12月4日	受講料 248,400円
第110期	2015年 8月27日 ▶ 2016年 3月8日	

●主催：一般社団法人 部落解放・人権研究所 ●協力：部落解放・人権大学講座運営委員会

啓発・研修についてのご相談をお寄せください

研究所では、啓発事業の一環として、部落問題をはじめとする人権教育・啓発の相談を事業として位置づけています。

主に部落問題をはじめ、様々な人権課題についての講師やフィールドワークの候補地、資料等についての相談や紹介がこれまでも多く寄せられてきましたが、最近では、それらに加えて、職場等での人権研修の企画、運営についてのご相談や、研修の実施運営の受託やサポート等の相談も受けています。

直近では、今年2月、ある企業様より、リバティおおさかでの見学と地域のフィールドワークなど、部落問題学習を目的にした全国レベルの社員人権研修を実施するにあたって、企画・運営のご依頼があり、サポートさせていただきました。

研究所では、部落問題に限らず、様々な人権課題に関する講座・集会等の企画運営の経験があり、多様な人権団体（または当事者）とのネットワークも構築していますので、それらをもとに、サポートできることもあるかと思えます。どうぞお気軽にご相談ください。

研究所のたからもの《啓発用資料紹介》Vol.1

「水平社宣言・綱領」の複数言語訳冊子

2002年3月3日に発行した冊子。

日本語・中国語・英語・フランス語・ドイツ語・韓国語・朝鮮語、ロシア語、スペイン語、アイヌ語で全国水平社宣言が書かれています。ウェブサイトからダウンロードできますので、ご活用ください！

水平社宣言・綱領



《発行にあたって（冊子から引用）》

「1923年3月3日、日本の京都において、被差別部落民に対する差別の撤廃を求めて全国水平社が創立された。この大会で採択された宣言は、日本における最初の人権宣言とも評価され、綱領とともに、その後各方面で大きな影響を与え続けている。

新しく迎えた21世紀を人権が尊重された世紀とするために、今なおこの宣言と綱領から学ぶことは少なくない。全国水平社創立80周年を記念し、宣言と綱領を8つの言語に翻訳し、広く世界に紹介するものである。」

2015年度事業計画(案)及び予算(案)他を議論・承認 2014年度第2回理事会

去る3月20日(金)、全役員が出席し、所内会議室にて2014年度第2回理事会を開催しました。

理事会では、①2014年度正会員及び賛助会員の承認について(案)、②2015年度事業計画(案)、③2015年度予算(案)、④2015年6月(定時総会)以降の役員体制(案)の4つの議案が各議案毎に業務執行理事より提案され、それぞれ一定の議論を経て可決・承認されました。

とりわけ、理事会で承認された2015年度事業計画(案)の柱のみ以下紹介します。

①調査・研究活動の一層の強化、②同対審答申50年、部落地名総鑑40年をふまえた人権啓発と人材育成の推進、③第30回人権啓発研究集会(大阪)の成功、④「会員」「ヒューマンライツ」「受講生」の拡大、⑤ホームページのリニューアルと情報発信の強化、⑥事務局体制の充実強化。

なお、理事会で可決・承認された議案(①除く)及び2014年度の事業報告(案)、会計決算報告(案)他は来る6月10日(水)に開催します定時(第4回)総会で会員の皆様にご審議頂きます。とりわけ、議決権があります正会員の皆様への定時総会のご案内(案内状、議案書、議決権行使書)は監事による2014年度監査終了後の5月上旬にお送り致します。

(事務局)

一般社団法人 部落解放・人権研究所 第4回定時総会

日時 2015年6月10日(水)

午後1時30分 **第4回定時総会**

午後3時10分 **記念講演「戦後70年と日本国憲法」**

谷口真由美さん(大阪国際大学准教授、研究所理事)

会場 大阪人権博物館 リバティホール

大阪市浪速区浪速西3-6-36 Tel. 06-6561-5891

講演協力費 2,000円

*詳細は後日お送りします案内状をご参照ください。

新人紹介



まえだ ともあき
前田 朋章

この春から、総務部でお世話になることになりました前田朋章と申します。よろしくお願いします。

思い起こせば30年以上前の大学時代に研究所でアルバイトをした経験があります。リバティおおさかでの仕事を始めたとき、週の後半の何日かを、当時は浪速区久保吉にあった研究所の5階の図書室で図書の整理方法について学び、お手伝いさせていただいた経験を思い出します。ワープロさえ、十分に普及していなかった当時、集計用紙に線を引いて、手書きで図書名を書いていたことを懐かしく思います。そんなことから何かの縁の様なものも感じます。

当時とは、時代も人権をめぐる状況も変わりましたが、人権意識の普及と発展は重要です。職員の皆様にご指導いただきながら、これまでの仕事の経験を活かして、少しでもお役に立てたらと思っています。

このたび退職されました池上真知子さんに代わり、会計事務として働くこととなりました、小西愛里紗です。部落解放同盟大阪府連合会青年部の現役24歳です。

不慣れなことばかりで、皆さまにいろいろご指導いただくこともあると存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

また、研究所へお越しの際はぜひお声かけください。さまざまな方との出会いを大切に、成長していきたいと思っています。



こにし えりさ
小西 愛里紗



とがわ ひろこ
外川 浩子

2015年度人権啓発東京講座の企画運営を担当することになりました外川浩子です。「見た目問題」解決NPO法人マイフェイス・マイスタイル代表も務めています。どうぞよろしくお願いいたします。

講座では同和問題に重きをおきながらも、幅広く多種多様なテーマを盛り込んでいます。受講生のみなさんに様々な問題があることを実感してもらえるよう、また、自ら考え、解決に向けた行動を起こすきっかけとなるような講座をめざしています。

第40回部落解放・人権西日本夏期講座のご案内

日程 6月25日(木)、26日(金)

会場 【A会場】岡山シンフォニーホール大ホール 【B会場】岡山市民会館大ホール

主催 第40回部落解放・人権西日本夏期講座実行委員会

参加費 4,000円(参加・資料代、税込み) **規模** 3,500名

問い合わせ先

【岡山県内の方】部落解放同盟岡山県連合会 TEL.086-239-9081/FAX.086-239-9083

【岡山県外の方】(一社)部落解放・人権研究所 TEL.06-6581-8576/FAX.06-6581-8540

*詳細は部落解放・人権研究所のウェブサイト <http://blhri.org> をご覧ください。

スケジュール

第1日目 6月25日(木) 13時～17時

【A会場】 講座 「経済学でよみとく「社会保障」～世代をこえた持続可能なシステムのために～」
鈴木 亘(学習院大学経済学部教授)

講座 「ビッグデータ時代のプライバシー保護～技術の進歩とその課題～」
小林 正啓(花水木法律事務所弁護士)

【B会場】 講座 「ハンセン病問題の本質～正しい知識と事実を見抜く目を～」
畑野研太郎(国立療養所邑久光明園名誉園長)

講座 「『渋染一揆』から学ぶ」
難波 確夫(「岡山からの人権教育」研究会研究員)
横山 文雄(「岡山からの人権教育」研究会研究員)

第2日目 6月26日(金) 9時～15時

【A会場】 講座 「差別扇動(ヘイト・スピーチ)とどう闘うか～京都朝鮮学校襲撃事件、その被害と回復の歩み～」
朴 貞任(旧京都朝鮮第一初級学校オモニ会会長)

パネルディスカッション
「差別扇動(ヘイト・スピーチ)とどう闘うか～ヘイト・スピーチ、在日、差別禁止法～」

パネラー 朴 貞任(旧京都朝鮮第一初級学校オモニ会会長)
金 尚均(龍谷大学法科大学院教授)
中村 一成(ジャーナリスト)

コーディネーター 谷川 雅彦(一社)部落解放・人権研究所所長)

講座 「差別を乗り越えて」 岡本 博一(部落解放同盟岡山県連合会執行委員)

【B会場】 講座 「障害者への差別をなくしていくとはどういうことか～「合理的配慮」ということばのインパクト～」
松波めぐみ(公財)世界人権問題研究センター専任研究員)

報告 「認知症になった全ての人が希望と尊厳をもって暮らせる社会の実現にむけて」
～認知症の本人・わたしたちの視点から～

藤田 和子(若年性認知症問題にりとくむ会・クローバー副理事長、日本認知症ワーキンググループ共同代表、アルツハイマー病の本人)

川口 寿弘(若年性認知症問題にりとくむ会・クローバー事務局スタッフ、日本認知症ワーキンググループパートナー)

報告 「生活困窮者の支援とは～制度・支援の隙間に落ち込む若者の支援現場から～」
鈴木 晶子(一社)インクルージョンネットよこはま理事)

フィールドワークコース(事前申込制、定員50名 参加費 別途5,000円)

I 長島愛生園コース II 渋染一揆コース

月刊 ヒューマンライツ *Human Rights*

人権に関する情報を発信する **部落解放・人権研究所** の月刊誌です。

社員や職員、市民を対象に人権教育や啓発を担当する方はもちろん、市民として生活するみなさん一人ひとりにとって人権はキーワードです。

『ヒューマンライツ』は部落解放・人権研究所発行の『社会啓発情報』を受け継いで、1988年より発行しています。

市民生活のあらゆる面に関わる人権の情報が、A5判・80頁のコンパクトな誌面に詰まっています。

人権の“いま”が見える特集から、個性豊かな執筆陣の連載、各地の人権関連催し物情報、人権をめぐる社会の動き、ほっと一息つける4コマまんがまで。この機会に、ぜひご購読ください。

◆好評連載◆

- 人権教育の実践の現場から
- 東日本大震災～被災地域での学びから
- ゆっくり考えていきたい「合理的配慮」
..... 松波めぐみ
- 走りながら考える..... 北口 末広
- 被差別部落の歴史 近現代編... 黒川みどり
- 誰がために腹は鳴る 社納 葉子
- 本の道草 冠野 文
- 映画を通して考える「もう一つの世界」
..... 中村 一成
- ガッツせんべい くぼたかし
- 人権をめぐる動き／各地の行事／ほか

◆バックナンバー◆

- 4月号 No.313 研究所の新たな出発点
- 5月号 No.314 包摂型社会をめざす
- 6月号 No.315 公契約条例をどう活用するか
- 7月号 No.316 多様な“性”が共生できる社会へ
- 8月号 No.317 認知症高齢者や家族が安心して暮らせる社会づくり
- 9月号 No.318 変革が求められる奨学金制度
- 10月号 No.319 宗教と部落問題
- 11月号 No.320 第39回部落解放・人権西日本夏期講座
- 12月号 No.321 「部落地名総鑑」差別事件を考える
- 1月号 No.322 同対審答申50年と同和問題を考える
- 2月号 No.323 無戸籍者の問題とは
- 3月号 No.324 若者福祉をつくる

A5判・80頁 1冊500円＋税 (年間購読料: 6,000円＋税 会員4,800円＋税)

定期購読・バックナンバーお申し込みは随時受付中

◆お問い合わせ先◆

(一社)部落解放・人権研究所 総務部・販売担当
TEL:06-6581-8619 FAX:06-6581-8540 E-mail: human@blhri.org
〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル8F

お知らせ

6月は「就職差別撤廃月間」です 《しない させない 就職差別》

大阪府では、6月を「就職差別撤廃月間」と定め、啓発事業に取り組んでいますので、就職の機会均等を保障することの大切さについて、皆様のご理解とご協力をお願いします。



【就職差別110番を開設します】

○下記の期間、電話での相談をお受けしています。

設置期間 6月17日(水)～19日(金)

設置時間 午前10時～午後6時

電話番号 ☎06-6120-9518

○就職差別撤廃月間期間中(6月)は、Eメールにより府民のみなさまから就職差別に関する相談を随時お受けします。

Email : rosei-g04@sbox.pref.osaka.lg.jp

URL : <http://www.pref.osaka.lg.jp/rosei/koseisaiyo/400-tepai-syusyosabe.html>

働くのは私！ 私自身を見てください。

大阪府商工労働部雇用推進室 ☎06-6210-9518

2015年5月から 研究所ウェブサイト をリニューアルします！

ウェブサイトをリニューアルします！

これまで以上に各部門の紹介や情報を充実させます。

会員入会手続きや集会への申し込みなどもできるようになります。

乞うご期待！！



全国水平社創立大会のビラが大学入試問題に掲載されました。

大正時代以降の社会運動で、ビラやポスターなどが多用された例として写真で紹介されています。

「全国水平社創立宣言と関連資料」のユネスコ世界記憶遺産登録が望まれます！

参加者募集!! 2014.5～6 研究所カレンダー

- 5/16 第一研究部門(部落差別の調査研究)第6回公開講座 @大阪人権博物館
「人種化プロセスの接点を探る～中世「河原者」「非人」「ジブシー」「ユダヤ人」をめぐる言説から」
竹沢泰子さん(京都大学人文科学研究所)
- 5/26 第109期部落解放・人権大学講座開講式(～12/24) @HRCビル
- 5/29 第372回国際人権規約連続学習会 @HRCビル5Fホール
「高校生の安心・安全を守る セーフティーネットの現場から」
辻田梨紗さん(officeドーナツトーク共同代表)
- 6/10 第4回定時総会・記念講演 @大阪人権博物館
「戦後70年と日本国憲法」 谷口真由美さん(大阪国際大学准教授、研究所理事)
- 6/25 第40回部落解放・人権西日本夏期講座(～26) @岡山市
- 6/30 第373回国際人権規約連続学習会 @HRCビル5Fホール
「同和地区の所在地情報の公開をめぐって」 滋賀県総合政策部人権施策推進課

◆ 啓発企画部 当面の講座・諸集会の日程

- 1) 第40回部落解放・人権西日本夏期講座 2015年6月25日(木)～26日(金)
会場:岡山シンフォニーホール、岡山市市民会館
- 2) 第46回部落解放・人権夏期講座 2015年8月19日(水)～21日(金)
会場:和歌山県高野町
- 3) 第28回人権啓発東京講座 2015年9月～11月 会場:東京都内
- 4) 第35回人権・同和問題企業啓発講座
第1部=2015年9月30日(水) 第2部=2015年10月13日(火) 会場:大阪国際会議場
- 5) 第30回人権啓発研究集会 2016年2月4日(木)～5日(金) 会場:大阪国際会議場

《連絡先》 啓発企画部 tel.06-6581-8576 fax.06-6581-8540

皆様の積極的なご参加
お待ちしております。

事務局便り

今号から研究所通信のスタイルを一新しました。紀要、ヒューマンライツと研究所が出版している冊子の中で、「研究所通信」の役割は？特色は？…と事務局で検討し、「会員さんと研究所の懸け橋になる」ことをめざそう、手に取りやすく、親しみやすい通信にしようというコンセプトにたどり着きました。次号からさらにそのコンセプトを反映できればと思います。多くの方に届きますように。(IK)